

特色ある区づくり事業「じゅんさい池みらいプロジェクト」

第5回 じゅんさい池みらい会議 会議概要

開催日時	令和3年10月21日（木）午後1時30分～3時15分
会 場	東区プラザ 音楽練習室2
出席委員	五十嵐委員、佐藤委員、長谷川委員、服部委員、山中委員
事務局	地域課長ほか同課より3名、区民生活課長ほか同課より1名、建設課長ほか同課より1名
概 要	<p>【報告】 前回会議の振り返り及び本プロジェクトの工程を確認し、併せて、事務局が本プロジェクトホームページに寄せられた意見について報告しました。</p> <p>【議事】 各議事における委員からの主な意見は以下のとおりです。</p> <p><今年度の取組みについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・刈り取った園芸スイレンやヨシの処分方法はどうしているか。たい肥として利用するなどの活用はあるのか。 →（事務局）公園管理の一環で、委託業者に廃棄物として処分を依頼している。 ・東池の環境保全作業について、目的や問題点を整理すべきではないか、計画内容についても、図を用いるなど分かりやすく示す工夫が必要だと思う。 ・東池での重機の使用はどの程度の規模なのか。 →（事務局）小型のショベルカーで水際に進入し、泥の中の枝、倒木等を除去する計画。 ・子ども版ガイドブックは、A4 両面くらいの簡易的なものでも良いので、今年度ぜひ作成してはどうか。 ・やさしい言葉でじゅんさい池の課題を伝えるようなリーフレットにしてはどうか。 <p><じゅんさい池みらいプラン骨子案について></p> <p>基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局提案の「SJ-iGs」とSDGs、ラムサール条約の柱を上手く整理していると思う。「SJ-iGs」は、もっと語呂が良くなるように表記方法などを工夫してはどうか。 ・子どもや若い世代では、SDGs が広く認知されているので、「SJ-iGs」というの

<p>概 要</p>	<p>は興味をもってもらいやすいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この会議では何度か議論してきたが、東池エリアと西池エリアの方向性を分けるのであれば、プラン上ではその説明などがもっと必要ではないか。 →東も西も本質的な価値には変わらないと思う。敢えて分けなくても良いのではないか。 <p>取組の方向性 実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランの方向性は良いと思うが、実際にどこまでできるのかが気になるところ。人も資金も集めるには、多くの人に理解してもらう必要がある。 ・骨子案はよくまとめたと思うが、全部やろうとすると難しいのではないか。優先順位をつけて、具体的に進められるようにしていくことが必要。 ・絵にかいたモチにしないためにも、最も厳しいと思われる「地域の実施体制づくり」に焦点を当てて、実現可能な姿を模索する必要がある。 ・「人もお金もノウハウももうないのだ」ということを明らかにするというのも、このプランを策定する意味があるのではないか。“じゅんさい池は良いところ”という面だけではなく、窮状や危機感を広く訴えるという側面があっても良いと思う。 ・地域の高齢化は顕著だ。東山の下・下山地区だけでなく、広く子どもへはたらきかけていくことが必要。 ・子どもや若い世代はよくユーチューブなどで情報を得ている。魅力発信の媒体として動画配信を活用してはどうか。 →短い動画でも効果があると感じる。ルールを決めて、子どもや一般の方が動画制作に参画できるような取組みも面白いのではないか。 →動画制作や広報について、例えば県立大生など、そういったツールを使い慣れていたり、実際に身近に利用している人に協力してもらうなどのやり方もあるのではないか。 ・今後は、若い人に向けた発信、届くようなメッセージを出す工夫が必要だと思う。 ・大規模な作業や、毎月何かをすることではなく、佐潟の潟普請もそうだが、1年に1回程度でも、参加者や関係者が一堂に会することができる機会があると良いと思う。 ・スイレン刈り、ヨシ刈りは重労働。その作業も大事だが、じゅんさい池に関わる人や興味をもつ人の輪が広がり、楽しめるような機会を作れるとより良いと思う。
------------	---

概 要	<ul style="list-style-type: none">・ 区役所の実施体制については、やはり建設課がすべてに関わって進めてほしい。・ これまで観光資源としてじゅんさい池の魅力であったシダレザクラとホテルが今後なくなってしまう方向である中で、どのように魅力づくりをしていくのが課題だと思う。・ 東区は企業や事業所が多いと思う。今、企業ではSDGsに関連して社会貢献・地域貢献への関心が高まっているので、ハードルを低くしてなるべくやさしいレベルから参画してもらえそうな仕掛けをしていくべき。
-----	--